

「ホリデー料理キャンプ」

ジョセリン・ヴォクマ（ブルキナファソ）

「ホリデー料理キャンプ」は西アフリカにある国、ブルキナファソで「料理大好きサークル（Well cooking circle）」という名の協会が始めた企画です。この協会は、国営テレビのディレクターを務めるフローレ・ヤメオゴ女史が統括しています。

「料理大好きサークル」は、15人の料理好きな女性の集まりです。協会メンバーの女性たちは、10～25歳の若い男女を対象にした料理教室を行うことを決定し、3年前から毎年「ホリデー料理キャンプ」を7月2日から8月14日にかけて開催しています。

「ホリデー料理キャンプ」は、数ある女性によるコミュニティ活動のなかでも、人気のあるものの1つです。ブルキナファソは現在、乏しい食糧事情と飢餓に起因する保健衛生上の問題、教育問題、家族の問題など、開発に関連した数多くの問題に立ち向かわなければならぬ状況です。「料理大好きサークル」は、男子厨房に入らずとするアフリカ的な伝統文化を持つこの国の青少年に、より良く生きるためにしっかり食べよう、ということを教えようとしています。つまり「ホリデー料理キャンプ」は、国内の伝統教育に見られる性差別主義的固定観念と戦う手段でもあるわけです。

多くの家庭がこの趣旨に賛同し、子どもを参加させています。教育プログラムには伝統食と現代食のいずれもが含まれます。ただし、環境から与えられる能力や可能性によって人間は豊かになれるという信念のもと、若者が、さまざまな食材を使った健康的な食事をこころがけるようにという観点から、伝統食に重きを置いたものとなっています。協会は男女を問わず、料理と栄養に関する専門家と協働しています。

「ホリデー料理キャンプ」は14日間のセッションが3回、合計42日間行われます。各セッションには100人ほどの若者が参加し、10～15人からなる10のグループに分けられます。

2007年7月、第3回ホリデー・キャンプが開催されました。若者たちは、自分たちの生活面について学ぶことができることを非常に喜んでいました。アフリカの学校や大学ではこういったことを教えていませんが、若者たちが男女平等という考えに基づいた人生を築いていくためには、老若男女を問わず家庭で料理をすることができるように教えていく必要があるのです。

「ホリデー料理キャンプ」は、旧来からの考え方を変えること、すべての人が食べていくということに対してもつ、いろいろな可能性を社会に示すことを目的にしています。キ

キャンプでインタビューした 16 歳の少年、ステファンは、「これからはお腹が空いても、お姉さんに何か作ってと頼む必要がなくなるだろうと思います」と話していました。

経済・社会政策分析センター（ブルキナファソ語で CAPES）は、2007 年にさまざまな伝統食に関する科学的知識を載せた小冊子を若者に配布し、こういった、女性による新しい教育企画を支援しています。その目的は、若者に土地固有の知識を身につけさせることです。ブルキナファソの基本食はビタミン（A、B、C、D など）を豊富に含んでいます。人はみな、健康でありたいと願っています。だからこそ、伝統食を開発戦略の 1 つとして促進していくことが重要です。また「料理大好きサークル」の今後のプロジェクトとして、母親を指導して家事を改善させようというものがあります。というのも、女性は家から遠いところで厳しい仕事をしているというのに、夫や子どもは、彼女が帰ってきて料理を作るまで何も食わずに待っているからです。ですから、母親を指導し、まずは良質の食品と調理時間との関係といったプログラム内容の作成が必要となってくるでしょう。アフリカの基本食の調理は、非常に時間がかかるもので、現代の女性や仕事のパターンに合っていません。女性は家庭生活の中心となる礎石ですから、彼女たちが家庭生活を楽しもうとする気持ちが大切です。協会が料理を身につけるプロジェクトを成功させるためには、老若男女すべてを対象としたトレーニング・センターをつくる必要があります。協会メンバーは、今後のプロジェクトを実現させるための方策を模索しています。国営テレビやラジオなどの現地メディアも、キャンプ活動の様子を紹介したりするなどの方法で協会を支援しています。

